

群 教 セ	G11 - 03
	平24.246集

# 互いを認め合い、 よりよい人間関係を築こうとする態度の育成

## — 学級活動(1)における

「集団決定の仕方」と「事後の活動」の工夫を通して —

長期研修員 関 喜史

### 《研究の概要》

本研究は、「集団決定の仕方」と「事後の活動」の工夫を通して、互いを認め合い、よりよい人間関係を築こうとする態度の育成を目指した研究である。具体的には、折り合いを付け集団決定するための「なっとくシート」を活用した「集団決定の仕方」と、所属感を深め協力して実践するための「おうえんカード」や充実感を味わい次の活動への意欲をもつための「なっとくのバロメーター」を活用した「事後の活動」の工夫に取り組んだ。

**キーワード** 【学級活動 認め合い 人間関係 集団決定の仕方 事後の活動】

## I 主題設定の理由

平成20年の中央教育審議会答申では、「自分に自信がもてず、人間関係に不安を感じ、好ましい人間関係を築けずにいる状況が見られることから、生活を改善する話し合い活動を重視する」ことを、特別活動の改善の基本方針として記している。そして、小学校学習指導要領解説特別活動編では、特別活動の目標を「望ましい集団活動を通して、(中略)、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる(後略)」と掲げ、よりよい人間関係を築くために、幼児期の折り合いを付ける経験を基盤にして学級の生活の充実と向上に関する諸問題について話し合い、話し合っただけで決めたことを協力して実践していく活動を積み重ねていくことを求めている。

これらを受け、群馬県教育委員会の「はばたく群馬の指導プラン」では、安易に多数決で決定せず、意見を十分に検討し、よさを出し合い、折り合いを付けて修正案を生み出す集団決定の仕方や、協力して実践し、活動の成果を振り返り、次の活動に生かす事後の活動を推奨している。

協力校などの実態から学級活動(1)において、児童一人一人のよさが十分に発揮されず、話し合いの場では、自分の考えを主張しすぎたり一部の児童の意見に左右されたりして、最終的には多数決で集団決定することが多かった。学級活動(1)に関する調査(平成24年7月実施 対象:県下小学校学級担任抽出40名)の結果、「児童が多数決に頼らず集団としての意見をまとめる集団決定の仕方への指導に難しさを感じている」と回答した学級担任が87%であり、それを裏付けている。また、実践の場では、気の合う人とだけ一緒に活動する児童や進んでかかわることができない児童などがおり、集団としてのまとまりに欠け、人間関係に不安を感じる姿も見られた。よりよい人間関係を育成するためには、他者の意見を理解し尊重しながら話し合い、折り合いを付け集団決定したことを協力して実践すると共に、活動の振り返りを通して、充実感を味わい、集団の一員として次の活動への意欲をもつ必要がある。

そこで、本研究では、学級活動(1)において、折り合いを付け集団決定していく「集団決定の仕方」と、所属感を深め協力して実践したり、充実感を味わい次の活動への意欲をもったりしていく「事後の活動」の工夫をする。このような手だてを繰り返し積み重ねていくことで、互いを認め合い、よりよい人間関係を築こうとする態度を育成することができると考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

小学校学級活動(1)において、「集団決定の仕方」と「事後の活動」の工夫をすることで、互いを認め合い、よりよい人間関係を築こうとする態度の育成をすることができることを、実践を通して明らかにする。

### Ⅲ 研究の見通し

学級活動(1)において、次のような「集団決定の仕方」と「事後の活動」の工夫を取り入れた指導を繰り返し積み重ねれば、互いを認め合い、よりよい人間関係を築こうとする態度を育成することができるであろう。

- 1 本時の活動において、「なっとくシート」を活用した話し合いの場を設定すれば、折り合いを付け集団決定することができるであろう。
- 2 事後の活動において、「おうえんカード」を活用した交流の場を設定すれば、所属感を深め、協力して実践することができるであろう。
- 3 事後の活動において、「なっとくのバロメーター」を活用した振り返りの場を設定すれば、折り合いを付けたことや協力して実践したことに対する充実感を味わい、次の活動への意欲をもつことができるであろう。

### Ⅳ 研究の内容

#### 1 「互いを認め合い、よりよい人間関係を築こうとする態度」について

「よりよい人間関係を築こうとする態度」を育成していくためには、互いを認め合うことが大切であると考えられる。

本研究における「互いを認め合う」とは、互いの個性を尊重し、互いに共感したり受容したりしながら、みんなで協力し合うことである。本時の活動では、話し合いの自由な意見交換の中で、一人一人の意見を尊重し互いの意見のよさに共感したり異なった意見を受容したりしながら折り合いを付けることである。事後の活動では、友達と励まし合ったり助け合ったりする中で、互いのよさに気づき、

集団の一員として居心地がよいという所属感を深め、協力し合うことである(表1)。本時や事後の活動における認め合いを振り返ることにより、それぞれの活動における自己の姿を見つめ、折り合いを付けたり協力し合ったりしたことに対する充実感を味わうことができ、集団の一員として次の活動への意欲をもつことができる。

上記のような一連の過程を繰り返し積み重ねていくことで、互いを認め合い、よりよい人間関係を築こうとする態度を育成することができると思われる。

#### 2 「集団決定の仕方」の工夫について

集団決定するためには、意見を出し合った後、一人一人の意見を尊重し互いの意見のよさに共感したり異なった意見を受容したりしながら意見を絞っていくことが重要である。その際、意見を尊重しながら、それぞれの意見を比べ意見のよさに共感したり、意見の理由を基にして自分が納得できる意

表1 本研究における互いを認め合う具体的な姿(自作資料)

過程	本研究における互いを認め合う具体的な姿	認める対象
本時の活動	ア 自分にもみんなにもよい意見を述べている。	自分
	イ 理由を添えて、自分の意見を述べている。	
	ウ 意見を生かしている。	
	エ 相手の立場に立って意見を聞いている。	他者
	オ 意見を理解し合っている。	
	カ 意見を尊重し合っている。	
	キ 意見を受容している。	両者
	ク 意見のよさに共感している。	
	ケ 意見をまとめようとしている。	
コ 意見の折り合いを付けている。		
事後の活動	サ 互いにアドバイスし合っている。	他者
	シ 助け合っている。	
	ス 協力し合っている。	
	セ 互いを励まし合っている。	両者
	ソ 互いのよさに気付いている。	
	タ 所属感を深めている。	

見を選んだり、いくつかの意見をつなげたり、意見のよさを生かし新たな意見を生み出したりしながら折り合いを付けることが必要である。

そこで、折り合いを付け集団決定するための手だてとして「なっとくシート」を活用する。「なっとくシート」は、「意見の中間を考える」「意見をつなげる」「意見のどれかを選ぶ」「意見を比べる」という四つの視点を児童に分かりやすいように「なかよし」のわざ」「つなげるのわざ」「どれかのわざ」「くらべるのわざ」という四つのわざとして示したシートである（図1）。

この四つのわざを使って意見をまとめていく中で図2のように互いを認め合うことも期待できる。また、意見を整理するために「なっとくメモ用紙」

を活用する（図3）。この

用紙に意見を記入することで、自分の意見や理由を明確化できると考える。

<b>な</b>	<b>っ</b>	<b>と</b>	<b>く</b>
意見のなか（中間）を考えて まとめよう。	<b>「なかよしのわざ」</b>	意見をつなげてまとめよう。	<b>「つなげるのわざ」</b>
わたしは、【なかよし】AとBの中間（なか）をとって～にすると思います。理由は～だからです。		わたしは、【つなげる】AとBをつなげて～にすると思います。理由は～だからです。	
わたしは、【どれか】 A（B）が～だと思います。理由は～だからです。		わたしは、【くらべる】（～にしている所・ちがう所などを考えて）～にすると思います。理由は～だからです。	

図1 なっとくシート

意見の認め合い
互いの意見のよいところを認め、新たな意見を生み出す。 【エオカキケコ】
納得できた意見を認め、つなげて意見を生み出す。 【エオカキケコ】
理由をもとにたくさんの意見からどれかを選べる。 【エオカキケコ】
みんなの意見を認めた上で、みんなの意見を比べてみる。 【エオカキ】
【 】は、表1との関連

図2 なっとくメモ用紙と意見の認め合いの関係

<b>な</b>	【なかよしのわざ】 意見のなか（中間） を考えてまとめ よう。
<b>っ</b>	【つなげるのわざ】 意見をつなげてま まとめよう。
<b>と</b>	【どれかのわざ】 意見のどれかを選 ぼう。
<b>く</b>	【くらべるのわざ】 意見を比べて、み んなが納得できるよ うにしよう。

図3 なっとくメモ用紙

### 3 「事後の活動」の工夫について

#### (1) 「おうえんカード」を活用した交流の場について

「おうえんカード」とは、話し合いを受けて実践前や実践中に友達への励ましやアドバイスを記入するカードである（図4）。カードは、記入後、友達と交換し合いワークシートに貼付していく。



図4 おうえんカード

実践にかかわる互いのよさを認め合って、このカードに励ましやアドバイスを書いたり、書いてもらったりして交流することで、友達のよさに気付くと共に、自分のよさにも気付くことができる。カードを通して、互いを認め合うことで「自分のよさが認められ、居心地がよい」という所属感を深め、協力して実践することができる。時には、話し合いで自分の意見が取り入れられなくて我慢した児童が、友達からの励ましやアドバイスをもらうことで前向きな気持ちを持ち、実践への意欲を高めることも期待できる。

#### (2) 「なっとくのバロメーター」を活用した振り返りの場について

活動を振り返るために「なっとくのバロメーター」を記入することができるワークシートを取り入れる。「なっとくのバロメーター」とは、事前、本時、事後の活動ごとに意欲の高さを記入できるようにしたものである。具体的には、活動に対する初めの意欲を基準として、その後、意欲が上がった

た時には右、意欲が下がった時には左へ動くように設定し意欲のレベルを左右それぞれ三段階にした（図5）。

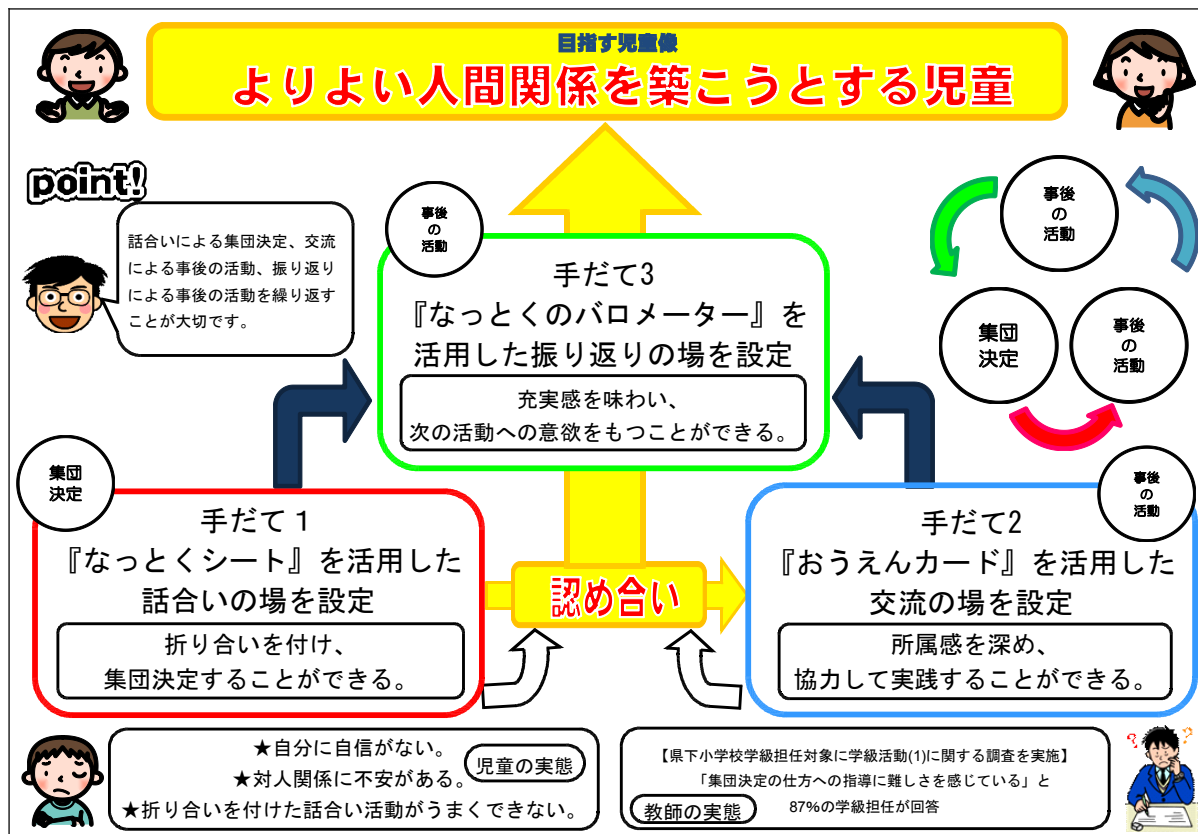
活動に対する意欲の変化を視覚化できる「なっとくのバロメーター」を活用して自己を振り返ることで、共感したり受容したり、時には葛藤したりしながら話し合ったり、協力して実践したりしたその時々の自己を見つめたり意欲の変化をとらえたりすることができる。具体的には「意欲のレベルが3だったのは、〇〇だったからだな」「□□だから意欲のレベルが下がった」など、自分なりの理由を基に納得しながらその時々の自己の姿や思いを振り返ることができる。また、「自分の意見に決まらなかったから、レベル2だったけれど、その後の活動が楽しかったからレベル3になったな」など、意欲の変化をとらえた振り返りを行うことができる。

このような振り返りを通して、みんなで話し合い折り合いを付けたり、みんなで協力して実践したりしたことに対する充実感を味わうことができると考える。そして、この充実感を味わうことが、次の活動への意欲につながると考える。また、「なっとくのバロメーター」を活用することで、教師は、児童一人一人の意欲を活動ごとに見取ることができるので、児童一人一人の意欲に配慮し、充実感を味わうことができるような言葉かけなどの支援をすることも可能となる。

なお、「なっとくのバロメーター」を記すことができるワークシートをファイリングし「学級活動ノート」として位置付けることで、児童は、繰り返し積み重ねた活動を振り返ることができると共に、折り合いを付けたり、協力して実践したりした充実感を、より味わうことが期待できる。

図5 ワークシート

#### 4 研究構想図



## V 研究の計画と方法

### 1 実践の概要

対象	小学校 第2学年 25名	小学校 第5学年 24名
実践活動	「ふれあいタイムの遊びをきめよう」 「楽しい給食にしよう」	「みんなで作ったカルタで楽しく遊ぼう!!」「運動会を成功させよう」 「ふれあいタイムの遊びを決めよう」「後期の学級のめあてを決めよう」
時期	平成24年9月15日～11月20日	
授業者	長期研修員 関 喜史	

### 2 抽出児童（第5学年）

A	C & S 質問紙による調査では、自己肯定感が高く、学級の雰囲気満足している傾向が見られた。児童会に所属し、学校行事の企画・運営に携わりやるべきことは責任をもってやり遂げることができる。
B	C & S 質問紙による調査では、自己肯定感が低く、学級の雰囲気満足している傾向が見られた。発言には消極的で、自分を表現することが苦手である。

### 3 検証計画

検証過程	検証の観点	検証の方法
見通し1 話し合いの場	「なっとくシート」を活用した話し合いの場を設定したことは、折り合いを付け集団決定するために有効であったか。	・活動の観察 ・話し合いの振り返り ・なっとくのバロメーター
見通し2 交流の場	「おうえんカード」を活用した交流の場を設定したことは、所属感を深め、協力して実践するために有効であったか。	・活動の観察 ・おうえんカード ・なっとくのバロメーター
見通し3 振り返りの場	「なっとくのバロメーター」を活用した振り返りの場を設定したことは、折り合いを付けたことや協力して実践したことに対する充実感を味わい、次の活動への意欲をもつために有効であったか。	・活動の観察 ・なっとくのバロメーター ・活動全体の振り返り ・C & S 質問紙

### 4 学級活動(1)における評価規準

#### 【第2学年】

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級の身の回りの問題に課題をもち、他の児童と協力して進んで集団活動に取り組もうとしている。	学校生活を楽しくするために話し合い、自己の役割や集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、仲良く助け合って実践している。	みんなで学級生活を楽しくすることの大切さや、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の基本的な進め方などについて理解している。

#### 【第5学年】

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の生活の充実と向上にかかわる問題に関心をもち、他の児童と協力して自主的に集団活動に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い、自己の役割や責任、集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの意味や、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の効率的な進め方などについて理解している。

### 5 活動計画（1単位時間）

#### (1) 小学校2年生 議題 「ふれあいタイムの遊びをきめよう」

ねらい：「みんなでなかよくできるふれあいタイムの遊び」の内容を話し合っ決めて決めることができる。

過程	時間	活動内容	指導のポイント(○)と研究上の手だて(◎)	目指す姿と評価方法
事前の活動	休み時間	1 課題（議題）の発見	○学校生活における児童の様子等、実態把握に努める。 ○「議題ポスト」へ提案を呼びかける。	【知・理】 学級全体での話し合いの基本的な進め方を理解している。（観察）
	朝や帰りの会	2 議題の決定	○提案された議題を整理し「みんなで話し合う必要性・切実感」のある議題を選定する。	
		3 議長・副議長との打ち合わせ	○【低学年 話し合いの進め方】を活用し、進行について議長・副議長と確認する。	
		4 問題の意識化	○一人一発言を目指し、考えをもつことができるよう議題に対する自分の考えをワークシート及び短冊に記入するよう伝える。	
本時の活動	学級活動	5 話し合い活動	○【低学年 話し合いの進め方】及びワークシートが準備できているか確認する。	【思・判・実】 みんなで仲良く遊べるための内容を考え、理由を述べながら発表している。（観察）
		① はじめの言葉		
		② 司会自己紹介		
		③ 議題の確認		
		④ 提案理由の確認	○提案者が提案理由を発表できたことを称賛する。 ○事前にめあてをワークシートに記入する時間を設定し、一人	

活動	⑤めあての確認 ⑥教師の話 ⑦話し合い ⑧決まったことの発表 ⑨振り返り ⑩教師の話 ⑪おわりの言葉	一人がめあてを理解できるようにする。 ○一人一人が自分の考えを記入した短冊を全て掲示し、意見の共有を図る。 ◎折り合いを付け集団決定することができるように、「なっとくシート」を活用した話し合いの場を設定する。【見通し1】 ○事後の活動に生かすことができるよう話し合いにおける振り返りの場を設定する。 ○全員のよかった点を認め、事後の活動につなげる。	〈振り返り〉 〈パロメーター〉
事後の活動	休み時間 6 集団としての実践 7 活動の振り返り 帰りの会	◎所属感を深め、協力して実践することができるように、「おうえんカード」を活用した交流の場を設定する。【見通し2】 ◎折り合いを付けたことや協力して実践したことに対する充実感を味わい、次の活動への意欲をもつことができるように、「なっとくのバロメーター」を活用した振り返りの場を設定する。【見通し3】	【関・意・態】 仲良く助け合って集団活動に取り組み、次の活動への意欲をもっている。〈観察〉 〈おうえんカード〉 〈パロメーター〉 〈振り返り〉

(2) 小学校5年生 議題 「みんなで作ったカルタで楽しく遊ぼう！」  
ねらい：「みんなが楽しく遊べるカルタ」の内容を話し合っ決めて決めることができる。

過程	時間	活動内容	計画委員の主な活動	指導のポイント(○)と研究上の手だて(◎)	目指す姿と評価方法	
事前の活動	休み時間	1 課題(議題)の発見	☆議題ポストへの提案を呼びかける。	○計画委員を編成し、事前の活動を進める。	【知・理】 学級全体での話し合いの効率的な進め方を理解している。〈観察〉 〈活動計画書〉	
	朝や帰りの会	2 共同問題の設定	☆共同の問題を決めて問題意識を共有化する。	○「みんなで話し合う必要性・切実感」のある議題を選定する。 ○活動計画を計画委員と協力して作成する。		
		3 議題の決定	☆提案された議題を整理し、選定する。			
		4 活動計画の作成	☆活動計画及び【高学年話し合いの進め方】を活用し進行の確認をする。			
		5 問題の意識化	☆自分の意見をワークシート・短冊に記入するよう呼びかける。			
本時の活動	学級活動	6 話し合い活動	☆議題、めあて、提案理由の確認をする。	○めあてに沿った話し合いになるよう助言する。	【思・判・実】 みんなが楽しく遊べるためのカルタの内容を考え、理由を述べながら発表している。〈観察〉 〈振り返り〉 〈パロメーター〉	
		① 始めの言葉	☆議長は進行、副議長は指名、書記は板書を中心に行い役割を果たす。	○事前にめあてをワークシートに記入する時間を設定し、一人一人がめあてを理解できるようにする。 ○事前に意見を計画委員と協力し似ている内容ごとに分類しておく。		
		② 計画委員自己紹介				
		③ 議題の確認				
		④ 提案理由の確認				
		⑤ めあての確認				
		⑥ 教師の話				
		⑦ 話し合い				
		⑧ 決まったことの発表				◎折り合いを付け集団決定することができるように、「なっとくシート」を活用した話し合いの場を設定する。【見通し1】
		⑨ 振り返り				○全員のよかった点を認め、事後の活動につなげる。
⑩ 教師の話	◎所属感を深め、協力して実践することができるように、「おうえんカード」を活用した交流の場を設定する。【見通し2】					
⑪ 終わりの言葉	◎折り合いを付けたことや協力して実践したことに対する充実感を味わい、次の活動への意欲をもつことができるように、「なっとくのバロメーター」を活用した振り返りの場を設定する。【見通し3】					
事後の活動	休み時間	7 集団としての実践	☆実践の準備を進め「おうえんカード」の活用を呼びかける。	◎所属感を深め、協力して実践することができるように、「おうえんカード」を活用した交流の場を設定する。【見通し2】	【関・意・態】 協力して意欲的に集団活動に取り組み、次の活動への意欲をもっている。〈観察〉 〈おうえんカード〉 〈パロメーター〉 〈振り返り〉	
	帰りの会	8 活動の振り返り		◎折り合いを付けたことや協力して実践したことに対する充実感を味わい、次の活動への意欲をもつことができるように、「なっとくのバロメーター」を活用した振り返りの場を設定する。【見通し3】		

## VI 研究の結果と考察

1 「なっとくシート」を活用した話し合いの場を設定したことは、折り合いを付け集団決定するために有効であったか。

(1) 「ふれあいタイムの遊びをきめよう」(2年生)の実践の結果

① 全体の様子

なかよし司会(通称)の進行により、事前に短冊に記入しておいたそれぞれの意見を出し合った

後、折り合いを付けて集団決定するために「なっとくシート」を参考に意見をまとめるよう教師が促した。

まず、理由を基に、たくさん出された意見の中からどれかを選ぶ「どれかのわざ」を使って、「なわとび」「けいどろ」「ドッジボール」「いすとりゲーム」「ふやしおに」の五つの意見を選んだ。「けいどろはみんなで楽しめるから」など、それぞれの意見に2年生なりの理由が添えられたことで、理由を基にした意見交換がなされ、「〇〇君と同じで走ることがすきだからけいどろかふやしおにがいいと思う」など、互いの意見のよさに共感し意見を生かし合いながら話し合いを進めた。

次に、「いすとりゲームは雨の日にはできる」「ドッジボールは苦手な子がいる」「なわとびはみんなできないのでめあてと違う」という意見が出たことにより「どれかのわざ」を使って五つの意見を「ふやしおに」と「けいどろ」の二つにした。

最後に、教師が、「みんなでなかよくできる遊びを考える」というめあてを再確認するよう助言し「なっとくシート」を参考にしてもう一度考えるよう促したところ、両方をつなげて意見を生み出す「つなげるのわざ」で意見をつなげ「けいどろふやしおに」に集団決定した。理由として「けいどろもふやしおにもみんなでなかよくできる遊びなので、両方すればいい」という意見が出たことで全員が納得した。

話し合いの振り返りでは、「なかよく、話し合いができましたか」という項目について「できた」と回答した児童が15名、「まあまあできた」と回答した児童が10名であった。

## (2) 「みんなで作ったカルタで楽しく遊ぼう！！」(5年生)の実践の結果

### ① 全体の様子

計画委員の「カルタの内容を考えよう」という投げかけで、事前に、一人一人の児童が自分の意見を短冊に記入した。意見は計画委員と教師で似ている内容ごとに分類し、提示した。短冊を見ながら意見と理由を出し合った後、議長が「なっとくシートを使って考えてください」と呼びかけると、みんなの意見を比べる「くらべるのわざ」でそれぞれの意見を比べた。その後、「なっとくメモ用紙」に自分の意見や理由を整理し、意見を出し合った。まず、たくさん出された意見の中からどれかを選ぶ「どれかのわざ」では、「みんなのよいところカルタ」「クラスのよいところカルタ」「5年2組カルタ」「なかまカルタ」「下里見小カルタ」「よいとこミッケカルタ」の六つの意見が出された。また、両方つなげて意見を生み出す「つなげるのわざ」では、「下里見小カルタ」と「クラスのよいところカルタ」をつなげて「下里見小のよいところカルタ」、「みんなのよいところカルタ」と「5年2組カルタ」をつなげて「5年2組みんなのよいところカルタ」の二つ、新たな意見を生み出す「なかよしのわざ」では、「なかまカルタ」「5-2カルタ」「クラスのよいところカルタ」をまとめて「5年2組なかまカルタ」の一つにして、合計九つの意見が出された(図6)。それぞれの理由を確認するよう促したところ「クラスの絆を深めるためにカルタを作るので下里見小のよいところカルタはめあてにあっていない」という意見が出された。

最後に「みんなの絆を深めるために、みんなが楽しくできるカルタの内容を考える」というめあてと「一人ぼっちの子が出ないようにするため」という提案理由に着目し「みんなの考えが含まれていて絆が深まる」という理由から「くらべるのわざ」で「5年2組みんなのよいところカルタ」に集団決定した。

### ② 抽出児の様子

児童Aは、「なっとくシート」の「どれかのわざ」を使って「みんなのよいところカルタ」とい

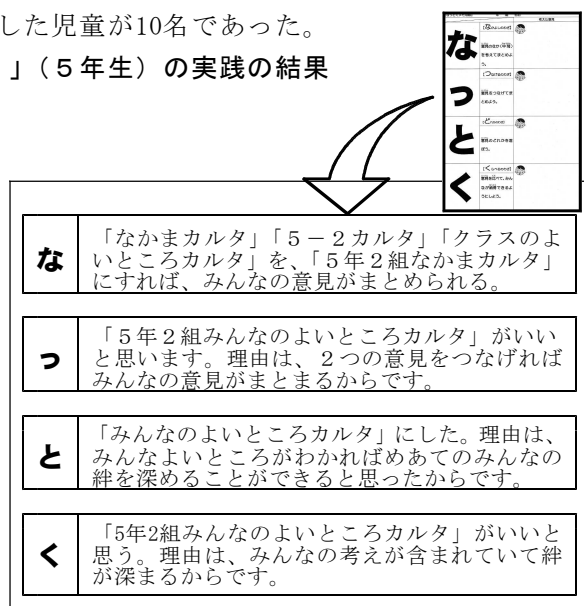


図6 なっとくメモ用紙に記述された意見とその理由例



う意見をもった。「なっとくメモ用紙」には、「みんなのよいところを内容にすれば、自分のどこがよいとみんなが思っているのか分かるから」という理由を記した。

次に、めあてと提案理由に着目したところ「5年2組みんなのよいところカルタの方がクラスのよいところも一人一人のよいところもある」という意見に納得し、自分の考えを変えることができた。そのことにより、意欲が高まり「なっとくのパロメーター」は上昇した(図7左)。

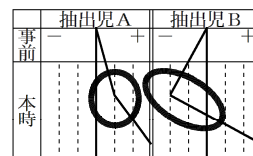


図7 なっとくのパロメーター

児童Bは、議長に指名されて「なっとくシート」の「どれかのわざ」を使って「5年2組のよいところカルタ」という意見を発表した。理由は、「絆が深まり、みんなが楽しめるから」であった。「なっとくシート」に意見を選ぶ視点があることで、それを活用して発表することができた。発表では、不安な表情を見せ、小声でつまる様子も見られたが、最後まで自分の意見を言うことができた。友達から拍手で共感され、安心した表情を浮かべていた。話合いの振り返りでは、「いっぱい発言できたし、意見もまとめられてよかった」と発表した。「なっとくのパロメーター」は、意見がみんなに言えたところから上昇した(図7右)。

### (3) 考察

表2は、「なっとくシート」のわざを生かして折り合いを付けた具体例と認め合いの様子である。

表2 折り合いを付けた具体例と認め合いの様子

※【 】は、表1との関連

わざ	学年	具体例	認め合いの様子
なかよし	5	「なかまカルタ」「5-2カルタ」「クラスのよいところカルタ」を生かして「5年2組なかまカルタ」にする。	みんなの意見を生かした新たな意見を考えることができた。【エオカキケコ】
つなげる	5	「けいどろ」と「ドッジボール」をつなげて「けいどろドッジボール」にする。	どちらの意見も認めたいので、ルールを工夫した二つの遊びをすることで集団決定した。【エオカキケコ】
どれか	2	「音楽をきく」「なかよしと食べる」「円になって食べる」の中から、みんなの顔が見えて楽しくなるから「円になって食べる」にする。	納得できた意見の中から、理由を基に一つの意見を認め、集団決定した。【エオカキケコ】
くらべる	2・5	たくさんの意見をまとめていくために、どのわざを活用したら納得できるか意見の比べ合いをする。	一人一人の意見のよさや相違点に共感したり受容したりしながら納得できる意見を考えている。【エオカキ】

(1)(2)の結果から、「なっとくシート」のわざを使うことで、児童は、意見のまとめ方を理解することができ、それぞれの意見を尊重しながら集団決定することができた。「なっとくシート」を活用した話合いの場を設定したことは、折り合いを付け集団決定することに有効であったと考える。

## 2 「おうえんカード」を活用した交流の場を設定したことは、所属感を深め、協力して実践するために有効であったか。

### (1) 「ふれあいタイムの遊びをきめよう」(2年生)の実践の結果

#### ① 全体の様子

「おうえんカード」は、遊びの直前に記入し、席の隣同士で交換した。「はやく走れるからみんなをたすけてね」など友達のよさに着目して「おうえんカード」に記入する様子が見られた。また、「かくれるといいよ」「さくせんを立ててつかまえるといいよ」などのアドバイスが記され、実践では友達と相談して作戦を立てる様子も見られた(図8)。「みんなで遊ぶと楽しいな」というつぶやきも聞かれた。



図8 交流の様子

なお、「なっとくのパロメーター」は25人中、パロメーターが基準より上昇、または、高いまま推移した児童が18名、基準で推移した児童が7名であった。

### (2) 「みんなで作ったカルタで楽しく遊ぼう!!」(5年生)の実践の結果

#### ① 全体の様子

「おうえんカード」は、カルタ制作後に記入し、カルタ遊びに向けて席の隣同士で交換した。カードには、「みんなのよいところが分かるね」「自分のカルタは必ずとってね。協力するよ」「たくさんとろうね。楽しく遊ぼうね」などが記された。実践では、「〇〇さんのカルタを絶対とろう」



「5年2組ってよいところがたくさんあるんだね」など、友達と話しながら楽しむ様子が見られた。  
 なお、「なっとくのバロメーター」は24人中、バロメーターが基準より上昇、または、高いまま推移した児童が20名、基準で推移した児童が4名であった。

## ② 抽出児の様子

児童Aは、友達に対して「楽しくカルタで遊んでたくさんとろうね」という内容のカードを渡した。仲間と協力し楽しく遊ぼうという気持ちの表れだと考える。友達からは、「A君ならたくさんとれるよ」という内容のカードをもらい、うれしそうな表情を浮かべていた。実践では、「あそこにあるよ!」「次はとるよ!」など、協力しながらカルタをとる様子が見られた。

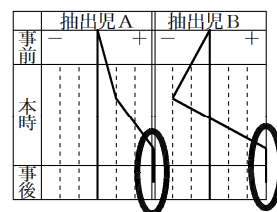


図9 なっとくのバロメーター

児童Bは、友達に対して「たくさんとってね」という内容のカードを渡した。表現することが苦手な児童Bにとって、カードに書くことで自分の思いを伝えることができた。友達からは、「楽しくカルタができるといいね」という内容のカードをもらい恥ずかしそうな様子だった。実践では、たくさんカルタをとることはできなかったが、「頑張って!」「やったね!」などつぶやきが聞かれた。「なっとくのバロメーター」は、児童A、児童B共に高い位置で推移した(図9)。

## (3) 考察

(1)(2)の結果から、「おうえんカード」による交流で居心地のよさを感じ、協力して実践する意欲が高まったことが分かる。このことは、「なっとくのバロメーター」の結果からも判断することができる。「おうえんカード」を活用した交流する場を設定したことは、所属感を深め、協力して実践することに有効であったと考える。

## 3 「なっとくのバロメーター」を活用した振り返りの場を設定したことは、折り合いを付けたことや協力して実践したことに対する充実感を味わい、次の活動への意欲をもつために有効であったか。

### (1) 「ふれあいタイムの遊びをきめよう」(2年生)の実践の結果

#### ① 全体の様子

話し合いでは自分の意見と違う意見が集団決定されたことで意欲の高まりが見られなかった児童が「初めはそんなに楽しみではなかったけれどみんなとあそべて楽しかった」という充実感を味わっていた。また、「みんなで遊ぶのは楽しいから、またやりたい」という次の活動への意欲をもてた児童もいた。このことから、バロメーターを参考に意欲の変化をとらえたり、自分なりの理由を基に納得しながら自己の姿を見つめたりしたことが分かる。

活動の終わりに「なっとくのバロメーター」のレベルが、+3の児童が17名、+2の児童が8名であった。また、活動全体の振り返りでは、「なかよく、たすけあってかつどうできましたか」という項目について、「できた」と回答した児童が16名、「まあまあできた」と回答した児童が9名であった。

### (2) 「みんなで作ったカルタで楽しく遊ぼう!!」(5年生)の実践の結果

#### ① 全体の様子

話し合い後のバロメーターのレベルが+3の児童は15名おり、「意見をみんなでまとめることができた」「まとめることが大変だったけれど最終的には納得できた」など、折り合いを付けられたことが理由として記された。また、交流でのバロメーターのレベルが+3の児童は17名おり「クラスやみんなのよいところが分かって絆が深まるね」「みんなで遊ぶと楽しいな」などのつぶやきから、所属感を深めている姿が見られた。そして、活動全体の振り返りでは、バロメーターのレベルが+3の児童が20名、+2の児童が4名であった。理由として「前よりみんな仲よくなった」「話し合いでたくさん発言できたので満足のいくカルタ遊びになった。またやりたい」「みんなで話し合って作ったカルタなので遊ぶことも楽しかった」「みんなでできる遊びが増えてよかった。次も楽しみです」など、バロメーターを参考にその時々自己の姿を見つめたり意欲の変化をとらえたりしながら振り返ることができたことで、充実感を味わい、次の活動への意欲をもてたことが分かる。

## ② 抽出児の様子

児童Aは、話し合いで友達の見解に共感し折り合えたことでバロメーターのレベルは+3となった。「みんなで話し合いクラスの良いところも一人一人の良いところもカルタにできるので遊ぶのが楽しみです」という理由を記した。また、交流を通して、「A君ならたくさんカルタがとれるよ」と励まされたことで、所属感を深め、協力して実践することができた。振り返りでは、「話し合って決めたクラスや一人一人の良いところが、読まれるたびに分かったのが楽しかった。またやりたいです」と記し、充実感を味わい、次の活動への意欲をもてた。

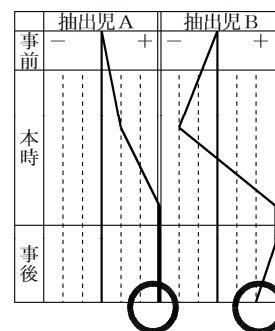


図10 なっとくのバロメーター

児童Bは、話し合いで自信をもてたことで意欲が高まり、バロメーターのレベルは+3となった。「初めは心配だったけれどいっぱい発言ができた」という理由を記した。さらに、友達から励ましの言葉をもらったことで、実践においても楽しくカルタ遊びをすることができた。振り返りでは、「楽しくカルタができてよかったです。みんなの絆が深まった気がするのもっとしたかった。あと、みんなで話し合っただけでカルタができてよかったです」と記し、充実感を味わい、次の活動への意欲をもてた。最終的に、「なっとくのバロメーター」のレベルは、児童Aが+3、児童Bが+2であった(図10)。

## (3) 考察

(1)(2)の結果から、「なっとくのバロメーター」を活用したことで、その時々での自己を見つめたり意欲の変化をとらえたりする振り返りをし、「話し合いで我慢することもあったけれど、意見をまとめることができてよかった」「自分の意見に決まらなかったから、レベル2だったけれど、その後の活動が楽しかったからレベル3になったな」などの記述例が見られた。「なっとくのバロメーター」を活用した振り返りの場を設定したことは、折り合いを付けたことや協力して実践したことに対する充実感を味わい、次の活動への意欲をもつことに有効であったと考える。

## VII 研究のまとめ

### 1 成果

- 2年生2実践、5年生4実践の実践前と実践後にお

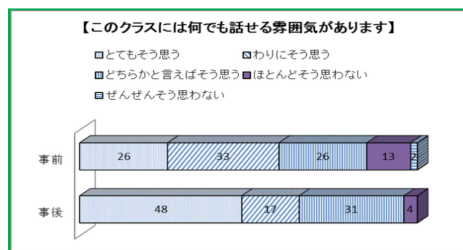


図11 2年生調査結果

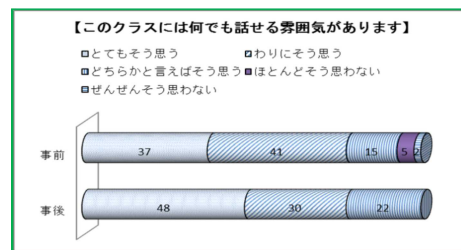


図12 5年生調査結果

いて、人間関係にかかわる意識調査を実施した(図11、12)。特に、「学級の雰囲気」を比較したところ、学級の雰囲気がよくなっていることが読み取れる。また、「以前よりみんな仲がよくなった」という振り返りも見られた。実践を通して、折り合いを付け集団決定するための「集団決定の仕方」と、所属感を深め協力して実践したり、充実感を味わい次の活動への意欲をもったりするための「事後の活動」の工夫をしたことは、互いを認め合い、よりよい人間関係を築こうとする態度を育成するために有効であった。

### 2 課題

- 学級活動における「なっとくシート」は、意見の折り合いを付けたり、他者と話し合い意見をまとめたりすることに有効であったので、さらに、各教科等の話し合い活動でも活用できることを明らかにしたい。

### <参考文献>

- ・群馬県教育委員会 著 『はばたく群馬の指導プラン』(2012)
- ・児島 邦宏 宮川 八岐 著 『小学校学習指導要領の解説と展開 特別活動編』 教育出版(2008)